



夜の飛鳥「岡大字」を ろうそくの灯りで照らす「万葉のあかり」

明日香村^{おかだいじ}岡大字地区は古来桜井・橿原から吉野への街道筋として、更に西国三十三所巡礼第七番札所「岡寺」の門前町として賑わった。

平成14年以前の同地区は、石舞台古墳から万葉文化館、飛鳥寺に通じる道が通っているものの、来訪客は通り過ぎるだけとなっており、村役場から、同地区の代表者にイベントを企画し、まちづくりに取り組んで欲しいとの要望があった。

そこで、平成14年11月「岡大字にぎわいの街まちづくり委員会準備会」を立ち上げ、検討の結果、平成15年5月に準備会を「岡大字にぎわいの街まちづくり実行委員会」へ変更、催しの内容は万葉歌を書きこんだ「明日香万葉行燈」により同地区をライトアップとすることに決定した。

実行委員会のメンバーが手作りで行燈を製作し、万葉集から飛鳥を詠んだ歌の選出は犬養万葉記念館学芸員に、行燈の和紙部分に万葉集の歌を書くのは地元の書家などに依頼した。

第1回目は平成15年9月20日（土）～23日（火）。同地区で「万葉のあかり」明日香万葉行燈を点灯した（行燈300個、カップろうそく200個）。平成17年からは同地区各戸に行燈を配布し、各戸の玄関に行燈を灯してもらっている。

同会は、毎年9月の中旬の土日に「万葉のあかり」を同地区で開催しており、今年は8回目となる。9月18日（土）、19日（日）に開催する（行燈953個、カップろうそく1,300個）。

期間中は古代衣装の試着ができ、高松塚古墳の壁画で有名な万葉人に変身し、灯りを鑑賞することもできる。

また、高さ4m、横幅3m75cmの大やぐら行燈が岡えびす神社の近くに備えられ、その年にふさわしいテーマを文字にし、灯りで示される。

明日香村は「万葉のあかり」のようなイベントを村中によびかけ、平成17年から「飛鳥光の回廊」として、史跡や街並み15か所でカップろうそくの点灯を始めた。点灯場所は、国営歴史公園石舞台地区、伝飛鳥板蓋宮跡、県立万葉文化館、飛鳥寺、岡寺などである。同会もこの行事に参加している。

同会の会員は「行燈を作るのは大変だが、この時期になったら楽しみにして来てくれる人がいるのがやりがいとなって続けていける」と話していた。

飛鳥には美しい自然と豊かな歴史遺産があるが、このような夜の楽しみも続けていくことで、飛鳥ファンがより増えることが期待される。

（上田 祥博）



古代衣装を着て灯りを鑑賞する来訪者



万葉集の歌が書かれた行燈

これからの催し

●入江泰吉記念奈良市写真美術館

平城遷都1300年記念 入江泰吉傑作選—大和路—前期
日時：7月3日～8月29日 9：30～17：00

同写真美術館で過去に展覧会で出展した作品の中から、厳選した風景や仏像作品を前期・後期に別けて展示。カラー作品をはじめ、初期のモノクロも紹介。

入江泰吉の作品を一堂に会した傑作選展で入江作品の魅力に迫る。

交通：JR・近鉄奈良駅から奈良交通市内循環バス乗車、破石^{わりいしちやう}町バス停下車、徒歩東へ10分。新薬師寺西側。

問合せ先：入江泰吉記念奈良市写真美術館
TEL：0742-22-9811